



東京多摩みなみワイズメンズクラブ

chartered on 2016.7.17

2021年 11月号 (第64号)

今月のことば

「私たちは、すべての人びとが生
 涯をとおして全人的に成長すること
 を願い、すべてのいのちをかけがえ
 のないものとして守り育てます。
 (日本 YMCA 基本原則から)
 (田中博之選)

2021～2022 年度 主題

クラブ会長 伊藤幾夫「楽しさをシェアしよう！」

東新部部長 松香光夫(東京町田コスモス)

「何が問題か、どうしたら良いか、道は一つではない」

東日本区理事 大久保知宏(宇都宮)「私たちは 次の世代のために 何ができるか？」

アジア太平洋地域会長 大野 勉(神戸ポート)「100年を越えて変革しよう」

国際会長 キム・サンチェ(韓国)「世界とともにワイズメン」

《クラブ役員》会長 伊藤幾夫 直前会長 深尾香子

書記 田中博之 会計 綿引康司 担当主事 小野 実

(当クラブは、多摩市社会福祉協議会多摩ボランティア・市民活動支援センターの登録団体です。)

今月の強調テーマ:ASF(Alexander Scholarship Fund:アレキサンダー奨学基金)、iGo、STEP(5 ページに解説を記しました)

11 月例会プログラム

日時：11月2日(火) 19:00～20:30

会場：Zoom による WEB 開催

司会：田中博之書記

- *開会点鐘および会長挨拶 伊藤幾夫会長
- *今月のことば 田中博之
- *ゲスト/ビジター紹介 会長
- *ゲストスピーチ「キリスト教と国際交流の実践を通して」
 為我井輝忠さん:東京町田スマイリング会長
- *チーム報告(プランター講座、ぽんぽこ農園、
 多摩社協、地域奉仕)
- *YMCA ニュース・連絡等
- *メンバー近況報告
- *ハッピーバースデー
- *閉会挨拶および閉会点鐘 会長
 (WEB 開催のため、構成を一部省略しています。)

【巻頭言】「エボシオヤ・エボシゴ」

日本民俗学をお好きな方はおられますか？私たちワイズや YMCA が考えるユースとの関係は、これと似通ってはいないでしょうか？この言葉は、古くは中世の武家社会、下がっても明治頃まで使われていた、青少年教育にとって重要な記号です。漢字では「烏帽子親・子」と書き男子が対象。女子には鉄漿親・子(カネオヤ・カネゴ)があり血縁の無い者同士が、実の親子とは別に「仮の親子」の契約を結び、社会規範を継承し、その安定を図っていた制度ですが、子どもは、烏帽子親による手厚い庇護の下で、運命共同体の構成員として確かな成長を遂げていたことが数多く記録されています。私たちは縁あって出会う事の出来た一つ下、あるいは斜め下の世代の人たちを、真摯に理解し、時間を掛けて、大切に育てていく機会を持っています。ワイズ 100 年を控え、自国では同様の交わりを約 500 年伝えて来ていたことを共有し、自信を持って、彼らに対峙したいと思います。『日本民俗事典』弘文堂刊



(深尾香子記)

11 月の Happy Birthday
 メネット田中直美(6日)
 メネット石田貞子(27日)

11月例会	在籍 9名 (内広義会員1名) 例会出席18名	出席内訳	メンバー		BF		ファンド	
			4名	3名	切手 g(今年度累計 g)	オークション	0円	
			出席率 88%	メネット 0名	使用済み切手、少しでもご持参ください		(今年度累計 0円)	
			ゲスト・ビジター 14名		ぽんぽこファンド	0円	スマイル	0円
					(今年度累計 0円)		(今年度累計 0円)	

10月例会報告

10月16日(土)、東京町田コスモス、東京町田スマイリング、東京多摩みなみの3クラブの合同例会が18名の参加でZoomにて開催されました。今期は、偶数月には3クラブが合同で例会を開催することになっていますが、今月は、東京町田スマイリングクラブが幹事、例会の企画、運営を担当いただきました。開会点鐘、ワイズソング、今月の聖句、3クラブ会長(当クラブは深尾直前会長)の挨拶、東新部部長の挨拶に続き、9月11日に開催された東新部大会の開催報告が太田実行委員長から行われ、皆で改めて、部大会の成功、3クラブの協働の成果を喜びました。その後、各参加者からのひとことがあり、ハッピーバースデー、各種アピールの後、閉会点鐘で、ほぼ定刻に終了いたしました。



次回の合同例会は、12月で、東京町田コスモスクラブの担当で、12月11日(土)に原町田教会にてクリスマス例会として開催される予定です。(田中記)
《出席者》18名：【メンバー】<東京多摩みなみ>石田、田中、深尾、綿引<東京町田コスモス>今村、加藤、権藤、田畑、富樫、松香、谷治<東京町田スマイリング>太田、尾張、城田、諏訪、為我井【ビジター】<東京>江口<東京世田谷>小川

10月第2例会(運営会議)報告

10月11日(月)19:00から、Zoomで10月の第2例会が開催されました。会計報告、ぼんぼこ農園、プランター講座、東京YMCAインターナショナルチャリティーラン等の情報共有等が行われました。協議事項としては、特に以下について話し合いを行い、決定いたしました。

- コロナ禍後の例会の会場については、改装されたパルテノン多摩も利用可能となったが、まずは、現在の会場のベルブ永山について、WiFiの導入、会場での食事を可能とするよう多摩市に要請を行う。
- ぼんぼこ農園をお手伝いいただいている佐々木さんにこれまでの経費を全額お支払いし、一方で、会員になっていただく働きかけを行う。
- ミャンマーのYMCA、ワイズを支援する募金にクラブとして献金する。クラブから1万円を立て替えて振り込んでおくが、今後、メンバーから任意の献金を募る。(田中記)

《出席者》6名:石田、伊藤、小野、田中、深尾、綿引

今月のスピーカー

為我井輝忠さん

東京町田スマイリングクラブ会長

(プロフィール)

茨城県下館市(現筑西市)出身。東洋大学文学部英米文学科・大学院修士課程で英国18世紀文学を専攻。修了後、イギリスで1年間英語を学ぶ。その後、東海大学付属相模高校および東海大学高輪短大で教鞭をとり、退職後に中国、スリランカ、フィリピンの大学でそれぞれ2年間日本語を教える。



卓話：キリスト教と国際交流の実践を通して

(スピーチの要旨)

大学在学中からずっとキリスト教と国際交流に関わりを持ち、実践してきた。大学ではキリスト教学生グループに所属し、多くの大学の同じグループの学生たちと交流を持ってきた。特に、東海大学のグループには松前重義氏を紹介していただき、後の教師への道を歩むきっかけとなった。相模高校校長だった元東京YMCA総主事の池田鮮氏にもキリスト教と教育に関し多くのことを教えていただいた。国際交流は、町田と相模原地域に住む外国人住民や留学生への生活支援や日本語支援を実践し、相模原市国際交流協会、町田国際交流センター、日本ポルトガル協会、日中文化交流協会、スリランカ協会、まちだ・さがみユネスコ協会その他多くの団体に所属し、会長や理事を勤めてきた。これまで海外へは60カ国をおよそ旅してきたが、国際理解と国際交流の必要性を実感してきた。

「東日本区CS・Yサ事業主任」として

10月度報告：深尾香子

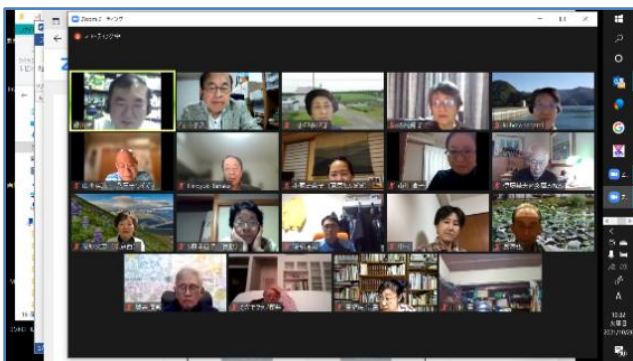
10月は、ヒヤッとする事態からスタート。7日(木)22時41分頃、埼玉県と東京都で最大震度5強を観測する地震がありました。震源地は千葉県北西部、首都圏では東日本大震災以来の規模の揺れであったと報じられました。外出中の家族と連絡が取れるまでには、少し時間が掛かりましたが、帰宅難民になっているものの、移動していることが分かりました。一人暮らしの父は無事でしたが、怪我でもしていれば厳しい時間を過ごすことになったと思うとゾッとします。一安心して、私はパソコンに向かいました。無論、自分の身の安全、家族や知人の消息、家や近隣の被害状況、仕事環境の確認。その全てに心配事が無ければという条件付きですが、幸いにそれらが満たされれば、私たちには地域に奉仕する者として、次には目を転じて、地域のお困りの方へ手を差し伸べる用意が有

って欲しいと思います。

主任方針の一つに、このことを掲げてあるのは、私を含む東京多摩みなみクラブの数名は、地元の社会福祉協議会へ災害時のボランティアとして登録しており、震災以降 10 年間、訓練を続け、職員や救助等の専門家と共に、都度対応の見直しを行っているからです。昨年からは感染症対策が加わり、この見直し作業が終わることはないのだと改めて思っているところでした。各部の主査と部長にあてて、安否確認のメールを送りました。皆さんの反応は早く、翌々日には無事を確認出来ました。ささやかではありますが、これもまた、主任として皆さんと共に行った訓練の一つです。今回は大事に至りませんでした。わが国ではどの地域でも油断は出来ないと言われていています。800 人のワイズお一人おひとりにとって自分の身の安全を確保することは第一ですが、支援する事だけでなく、される側になることも十二分に想定して、お住まいの地域での共助、公助の仕組みに関心を持ち、いざという時の人脈と行動について、しっかりと確認して欲しいと思った 10 月でした。

第 3 回プランター講座の報告

10 月 26 日(火)の午後 7 時から東京多摩みなみクラブが主催している Zoom オンライン講座、「プランター講座」の第 3 回目が予定通り開催されました。今回のテーマは、「小カブ、ナバナ、ノラボウ、ターサイ」と多種多様な初物の野菜が登場しました。この講座は、ワイズの他クラブの仲間やメネット、そしてその友人が中心となってご参加いただいています。登録参加者数は 30 名で、今回の秋季講座から、聴講参加も新たに設けましたが、Zoom 画面を見ているうちに本格参戦を希望される方もいて段々盛り上がってきました。第 3 回講座は、他の予定と重なり欠席者が多くなりましたが、都合 20 名が Zoom 画面に登場してくれました。遠くは、北海道部の十勝クラブを始め、あずさ部の長野クラブ、静岡県三島市、下田市からも参加いただきました。



この講座は、当日参加できなくても講座を録画していますので、翌日以降に YouTube で録画を見ることができます。急速な寒さの到来で身体がついていけないほどの変わりように正直驚いています。地域により季節感は違うのですが、開始前に Zoom 画面越しに状況を確認しながら参加者の元気な表情を見て

安心し、逆に元気をもらうことができました。

開講して丸々ひと月が経ち、植え付けた野菜たちの生育状況が気になります。ミニ大根は、何でこんなに成長が遅いの？片や勢いよく頑張っているリーフレタスとミニ白菜。同じタイミングで育てたのに違いが生じる。間引きのタイミング、土の盛り具合、日当たりの状況、水撒きの具合、追肥など変数が多すぎて素人にはコントロールが難しい面もあります。



やってみると野菜の生命力の強さとひ弱さの両面を感じます。最初は、勢いでやっていましたが、栽培を体験しながら色々なことを学び、失敗し、乗り越えて行くわけですが、そのハードルは、そこそこの高さを感じます。

また、参加者同士の生育写真を見比べると焦りと羨望と悔しさと色々な感情が交錯します。(笑)

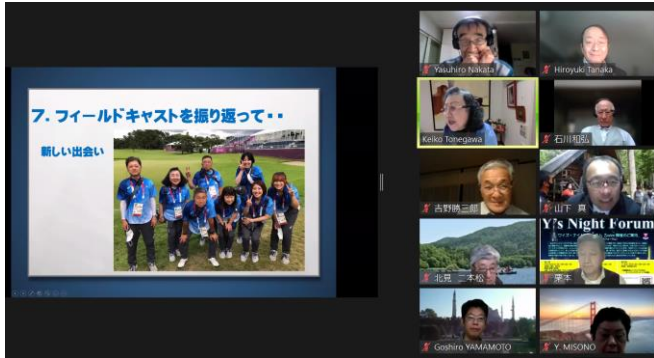


最後まで諦めずに頑張ろうと自らに言い聞かせ、プランターに向かう日々が続きます。講師の藤田智メンは、今日も情熱一杯ジョーク満載、厳しい突っ込みを使い分け、参加者の表情は笑いにあふれていました。参加者同士のコミュニケーションの輪が、自然な形で広がって行くのを Zoom の画面越しに見ると嬉しくなります。(石田記)

第 2 回ワイズナイト・フォーラム開催

10 月 24 日(日)、敢えて、大河ドラマの時間枠に設定された、ワイズメンズクラブを知らない人のために行う紹介プログラム。第 1 回に続き、70 名を越える参加者を迎えて、利根川恵子さんのお話が始まりました。オリンピックのボランティアとして、1 年の延期の中で、様々な世の中の批判を聞きながら、ご自身も不安の中、主催者の案内に従って研修を続けられ、専門外の全く新しい事も学んで、期間中には役割

をしっかり果たされたことを伺って、奉仕をする者の姿として本当に素晴らしいと思いました。初めてボランティアをする人に向かって、出来る時に、出来ることをやれば良い、と声を掛けることがあります。それは自分勝手に時間や、役割を決めて良いことではありません。Zoomの向こうに、もし本当に初めてボランティアをやってみたくて思っている方がおられたら、利根川さんの、謙虚さ、根気強さ、広い心を覚えて欲しいものだと思います。



続いて第2部では、北海道北見のキャンプ場に関わる方々からのお話が聞けました。YMCAのプログラムを知らず、ワイズ入会からもやっと6年が立とうとしている私には、北海道のキャンプ場がどんなところか分かりませんが、指導者が居る環境で、大自然に囲まれて、国籍の違う人たちとも交わりながら、いろんなプログラムに参加し成長出来ることを「キャンプ文化」と呼ぶことが有るのだということを初めて知りました。



私は、幼少期に札幌の公立学校で育っていますが、ここでは、父やその友人たち、そして学校の担任がYMCAというキャンプリーターであり、学校行事の一部がそのままプログラム、クラスメイトもまた自然の中ではその仲間であったのです。彼らは普段から側にいて何の気負いもなく生活を共にしていて、自然の中でいろいろな手本を示し、子ども同士は失敗と成功を体験しながら、普段と同じように日々が過ぎて行ったので、私には大人による、これが専門職だという意識が、このフォーラムを聴くまでありませんでした。そのため、話者の皆さんが言っていた最近流行っている娯楽としてのキャンプとは全く違うものだという事は肌感覚で知っていましたが、何が違うのか整理が出来ていませんでした。

そういうことが一つずつ繋がって来ると、YMCAの伝統といわれるキャンプの効果は、まだまだ日本には根付いていないのだという事が見えて来ます。これからは、これをどうやって知らせて行くか、キャンプ文化の大切さを知っている皆さんと、考えて行きたいと思います。(深尾記)

あずさ部部大会参加報告

10月16日(土)、あずさ部の部大会がZoomで開催され、当クラブからは石田さんと私が参加いたしました。80名近くの参加者がありました。第1部の式典、第2部の記念講演、第3部の懇親会の3部構成でしたが、記念講演は、プランター講座でもお世話になった、種苗会社にお勤めの東京八王子クラブの並木真さんによる「Do you 農? タネと野菜のエトセトラ」でした。種の袋の読み方、推奨するマルチ(農園の畑を覆う保温用のビニールシート)、脇芽の摘み方など、興味深いお話を聴くことができました。(田中記)

ぼんぼこ農園便り

楽しみにしていた里芋の収穫の日が、あいにくの雨で中止となり25日(月)に順延しました。参加できる人でなくなった人の楽しみを奪うことになってしまい申し訳なく思いながら友の会のメンバーから広義会員となる予定の佐々木さんの指導の下で里芋の収穫作業が始まりました。今回は、田中さん(お孫ちゃんのケンちゃんも参加)、峰岸さん、東京八王子クラブの小口さん、私を含め5.5人が作業に当たりま



した。井上さんと稲葉さんには本当に申し訳ありませんでした。二人ともこの日はご都合がつかず不参加となりました。今回は、作業風景をスマホのビデオに録画し、クラブのFaceBookへの投稿にトライしようと思いました。関係者以外のFB利用者に広くメッセージを発信し、クラブの活動の様子を知っていただきたいと思ったからです。しかしながら、作業スタッフが足りず、作業に集中せざるを得ず、残念ながら撮影する時間的余裕がありませんでした。サツマイモの収穫時に再チャレンジしてみます。里芋は、親

芋の元に子芋、孫芋が連なり、一本の茎の親芋から沢山の里芋が採れます。臨場感が伝わればいいと思います。



作業は、芋ほり、芋の切り離し、場所を移動しての芋洗い、親芋と子芋の仕分け、BOXへの保管などの一連の作業は、延々2時間以上に及びました。最終工程の芋洗いは、放水水洗い、根の切断と皮むきで結構大変な作業でした。今年の里芋は豊作で、芋の状態は極めて良好でした。親芋を含め全部で50kg以上になりました。



取り敢えず分散保管し、ワイズの仲間を中心に買っていただく予定です。本日の即売会だけで6,000円の売上となりました。「捕らぬ狸の皮算用」は「うなぎのぼり」です。(笑)

(石田記)

東新部第2回評議会のお知らせ

第2回評議会が下記の日程で開催されます。コロナの関係で、今回もオンライン（Zoom）での開催となります。いよいよ次年度の準備が始まります。当クラブの深尾香子さんが2022～2023年度の部長として東新部をリードしていきます。その深尾キャビネット（部役員）を承認するのが今回の評議会の重要な議題のひとつです。クラブをあげてバックアップしていきましょう。2022年は「Change!2022」の最終年でもあります。東新部としても、ラストスパートが期待されます。

出席義務者は会長（伊藤）、書記（田中）、会計（綿引）です。深尾さんと石田さんは現在の部役員です。出席します。

日時:11月20日(土)18:30～20:00 Zoom

11月10日はワイズデー

11月10日は、日本のワイズメンズクラブが初めて国際協会に加盟した記念日として、東西日本区では「ワイズデー」として定めています。1928年11月10日に大阪ワイズメンズクラブが加盟しました。ちなみに、2番目は神戸クラブ(1930.2.17)、3番目は横浜クラブ(1930.12.16)、4番目は東京クラブ(1931.2.6)です。東京クラブでは90周年記念誌発行の準備が進められています。この日に「Change!2022」プロジェクトをみんなで考えましょう。(伊藤記)

今月の強調月間テーマについて

【ASF】Alexander Scholarship Fund(「アレキサンダー奨学基金」)。

ワイズ創始者のポール・ウィリアム・アレキサンダーを記念して設置された国際協会の基金。将来YMCA主事になろうとする青年への財的援助を主たる目的に設置されたが、現在では、YMCAスタッフやYMCAに連なるユースのトレーニングやYMCAの財政的支援などにも用いられている。

ASF・アレキサンダー奨学基金
11月の強調月間テーマ

ワイズメンズクラブの重要な目的は、パートナーであるYMCAの活動とミッションを支援することです。

1954年以来、ワイズメンズクラブ国際協会のアレキサンダー奨学基金は、世界中のYMCAのリーダーシップを開発するために資金を提供してきました。

YMCA連帯基金は、現在、新型コロナウイルス感染症のパンデミックに苦しむ31の国のYMCAに必要な支援を行っています。

皆様のご好意により、ワイズメンズクラブ国際協会は、この重要な活動に20,000スイスフランを寄付することができました。

2021/22 献金推進策
ラッフルくじ
50スイスフランの国際ASFへの献金ごとに区にくじを1枚発行

- 1等 500スイスフラン (1枚)
- 2等 200スイスフラン (10枚に1枚当り)
- 3等 100スイスフラン (50枚に1枚当り)

他に、1人当りの献金額上位の地域、区を表彰

上位を目指しましょう!

昨年度一人当たりの国際ASF献金上位5区(スイスフラン)

地域	献金額 (スイスフラン)
本学区(西区)	1.8
オーモストリア区	1.6
中東・西区	1.5
本学区(北区)	1.2
本学区(南区)	1.1

【iGo】Internships for Global Outreach (アイゴー:「世界に手を伸ばすためのインターン制度」)。

青年の成長を目的として、YMCAやワイズメンズクラブ会員で事業を行っている者が、ユースに国際的なインターン(職業体験)の場を提供するプログラム。申請時に18歳から29歳の者が対象。2020-21年度に廃止されたYEEP(ワイズメン子弟高校留学生交換プログラム)の後継プログラム。

【STEP】Short Term Youth Exchange Program(「ユース海外短期交流プログラム」)。

3～11週間の短期海外訪問制度。18～25歳のワイズの子弟(または、3年以上、ワイズメンズクラブ、ワイズユースクラブ、YMCAの何れかの会員経験を有する者)が応募対象者。海外のワイズ家庭に滞在し、現地のユースとの交流や異文化を体験する。

訃報

伊藤幾夫さんの奥様のまゆみ様が、かねて療養中のところ、10月13日(水)0時40分に天に召されました。享年85でした。告別式は、10月15日(金)に、町田聖書キリスト教会にて家族葬で執り行われました。クラブから、ご自宅にお花をお届けいたしました。天国での安らかな憩いを心よりお祈り致します。



(田中記)

YMCA ニュース

担当主事 小野 実

いつもYMCAへのご協力に感謝いたします。

◆東京YMCA報告

・10月15日「東京YMCA高等学院を支えるためのチャリティーコンサート」が日本基督教団霊南坂教会で開催され、73人が来場しました。当日寄せられた募金も含め益金約17万円は高等学院の活動のために用いられます。

・10月16日～「第35回インターナショナル・チャリティーラン」が開始しました。昨年に続きスマートフォンの歩数計アプリを使ったウォーキングイベントとして実施されています。

◆今後の主な行事日程

- ・早天祈祷会 11月1日(オンライン)
奨励者：西原美香子氏
(東京YWCA業務執行理事)
- ・「YMCA/YWCA合同祈祷週礼拝」

日時：11月11日(木)18:30～
会場：東京YWCAカフマンホール
(オンライン参加も可)

説教：渡辺俊彦牧師(上馬キリスト教会)

- ・「ソシアス2021」 11月13日
会場：東陽町センター(オンライン参加も可)
テーマ：YWCAの会員活動の活性化に向けて
- ・「東日本地区YMCA役員研修会」
11月23日(オンライン)
テーマ：YMCAにおける公民連携事業について

◆ご寄付感謝

- ・三菱UFJ銀行 50万円
(東雲児童館のプログラム備品購入のため)
- ・株式会社木村洋行 100万円(国際協力募金)
- ・湯浅八重子氏(故湯浅慶学院長奥様)10万円
(フレンドシップファンド)

これからの予定

- *11/6(土)第2回区役員会
- *11/8(月)11月第2例会 19:00～ Zoom
- *11/9(火)第4回プランター講座 19:00～ Zoom
- *11/10(水) ワイズデー
- *11/13(土) 東新部役員会
- *11/20(土)第2回部評議会 18:30～ Zoom
- *11/21(日)第3回ワイズ・ナイトフォーラム
20:00～Zoom 西村隆夫さん(元国際書記長)
- *11/23(火)第5回プランター講座 19:00～ Zoom
- *12/11(土) 3クラブ合同例会 @原町田教会
(伊藤記)

連絡先：〒192-0023 八王子市久保山町1-9-3-807 田中博之(クラブ書記) (携帯)090-9823-6387

例会日：本例会 第1火曜日 19:00～20:30 会場：ベルブ永山(当面Zoom) 多摩市永山1-5 TEL042-337-6111

第2例会(役員会) 第2月曜日 19:00～20:30 会場：ベルブ永山(当面Zoom)

会費送金口座：多摩信用金庫 桜ヶ丘支店 普通口座 0251660 東京多摩みなみワイズメンズクラブ